

あいな里山公園の自然こよみ



国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

里山の四季と生きものたち

あいな里山公園
藍那駅を降り、急坂の集落をのぼりきると、雑木林のむこうに、田んぼや茅葺民家のある風景が広がっています。そこがあいな里山公園です。

里山の四季をつづってみましょう。
春、野に出て走りまわる子どもらには、つくしんぼ。今年も帰ってきたつばめが、さっそく古巣を見つけて飛びまわります。山のあちこちに山桜が浮かび咲き、木々の芽吹きが若葉いろに萌え染めていきます。もつつじの花と蛙の合唱を合図に、田植えの季節に入ります。

夏、蝉しぐれのなか稲の花が顔を出すころ、盆をむかえた田畑ははずまり、土手には秋草がゆれています。涼風な夕暮れには「チンチロリン」草地のどこからか松虫の音が聞こえてきます。
黄金色まぶしい棚田で稲刈りがはじまり、実りの秋が訪れます。褐色にいろづく雑木林に木枯らし吹いて、もみじ葉舞い散り、ふりかえれば冬木立の季節。

稲の切株に霜が降りて畦みぞが凍りつくころ、山仕事は本番、炭焼き窯から煙がたなびきます。

里山は、農耕という人の営みがおこなった生産活動の場でした。それは、四季を通じた自然とそのたたずまいであり、人々を育ててきた風土そのものです。また同時に、多様な生きものたちのすみかでもありました。

さあ、今日はどんな出会いがあるでしょう。耳をすまし、眺め、おもしろくさせてみましょう。

植物こよみと里山の暮らし

一月 睦月
七草粥
冬枯れの田畑に七草をもとめて摘み、新たな生命力をいただいて、一年の無事を祈りましょう。

二月 如月
炭焼きほだ木駒打ち
山仕事の季節。煙たなびく炭焼き窯は冬のたたずまいです。藍那では、シラカンを最良の炭材としてきました。しいたけ栽培の原木には、コナラやアベマキが使われます。

三月 弥生
牡丹餅づくり
啓蟄、冬ごもりしていた虫たちが目を覚ますころ、柳が芽吹き、ふきのとうが顔を出します。春のお彼岸には、牡丹餅やよもぎだんごをつくります。

四月 卯月
やまざくら咲く
ウグイスさえずり、かすみ立つ春の気配のなかで山桜が花ひらきます。子どももお年寄りも、折にごちそうをつめて山遊びに出かけ、春を愛でましょう。桜は田起こしをはじめる合図でもあります。

五月 皐月
もちばな咲くころ
モチツツジは、藍那では「もちばな」と呼ばれ、この花が咲くころ苗代に水を張り、種もみをまいて田植えにそなえます。もちばなの蜜はアゲハチョウたちを誘います。ウツギが咲き、ホトギスの声とともに田植えがはじまります。

六月 水無月
栗の花 梅雨空のもとほたる舞う
クリ、ノグミ、クマノミズキなど、くもり空のもとクリーム色の花々が虫たちを誘います。畦にはドクダミやホタルブクロが咲き、田んぼの草引きに汗を流すころ、夜の闇にはホタルが舞います。

七月 文月
やまもも摘む
夏に、ルビー色の果実が熟れるヤマモモ。藍那では、かごにコンダをしき、摘みとったヤマモモを夏の便りとして親せきや知人に贈る習慣がありました。藍那に近い白川では、古く奈良時代から都に献上されてきた記録があります。

八月 葉月
蝉しぐれ 盆花そなえる
山のみどりはいよいよ濃く、蝉の声に暑さが増すようです。田んぼ仕事はひと休み。みぞばたではミンハギが咲き、盆花としてそなえられます。強い日ざしは農作を約束するありがたい暑さ。稲の小さな花が咲いて、実りの季節がやってきます。

九月 長月
秋の七草咲く
土手のあちこちで七草が咲きそろう。涼風にゆれています。人の営みに寄りそい咲きついできた花々が、稲刈りの季節を告げます。中秋の名月にはススキやだんご、里芋をそなえます。

十月 神無月
柿いろいろ つるし柿づくり
甘柿や渋柿、大きいや小さいの。いろいろな柿が里山のあちこちで実ります。渋柿は、皮をむいて古民家の軒につるされます。秋のからっ風に吹かれて甘くなるのです。

十一月 霜月
雑木林 散り染める
ヤマザクラの紅葉にはじまり、透きとおるようなタカノツメ、ハギの黄葉と続き、コナラ・アベマキの林が晩秋の陽をうけ褐色に染まります。木枯らしが吹いて、冬木立へと移りかわり、炭焼きやほだ木用の伐木作業がはじまります。

十二月 師走
もうすぐお正月
山へマツやサカキ、ヒヤリガ、ユズリハ、ウラジロを採りに行き、しめ縄をつくります。藍那では古くから「めがね」や「ごぼう」とよばれる形で、新年を迎える準備をしてきました。

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
・正月飾り ・竹灯明台づくり ・とんど焼き	・節分・豆まき ・ほだ木駒打ち、炭焼き ・味噌仕込み・新酒まつり	・ひなまつり ・ふきのとう、つくし摘み ・ぼたもちづくり	・よもぎだんごづくり ・わらび摘み ・山菜の天ぷら試食	・鯉のぼりと菖蒲湯 ・新緑ハイキング ・田植えまつり	・梅収穫 ・じゃがいも掘り ・ホタル鑑賞	・きのこ狩り ・やまももまつり ・栗山子づくり	・うどんづくり ・夏休みクラフト ・昆虫採集	・鳴く虫鑑賞会 ・お月見 ・稲刈り	・つるし柿づくり ・さつまいも掘り ・里山まつり	・しいたけ原木伐りだし ・薪づくり ・れんこん掘り	・餅つき ・たくあん漬け ・しめ縄づくり

あいな里山おもしろ植物

暮らしや地域にちなんだとっておきの植物だよー！

【たこのあし】 婿の足
秋、真っ赤に紅葉するこの草のすがた...なにかを連想しませんか?そう、ゆでダコをひっくり返した感じ?
明石川の上流に位置する藍那の田んぼに育つタコノアシ、その細かい種子は、川をゆらゆらくって流域にも根付かせます。そして海に流れ着いたら明石のタコになるのかも?!

【さるとりいばら】 猿捕蒺
端午の節句には柏餅をいただきます。でも、藍那にはカシワの木はありません。そこで、昔の人はこの木の葉に餅をはさんでお祝いしました。ああおと光るお餅のできあがり!地元の人には「リンキライ」と呼びます。
巻きひげで他の木にからみついで上っていきます。冬つける赤い実は、リースにもってこい。

【かまつか】 鎌柄
この木には「ウシコロン」という別名があります。そう、この木で牛の鼻輪を作ったんだそうです。堅くて粘りのあるこの木ならではの。藍那では、昭和30年頃まで牛は水田耕作に欠かせない存在でした。
カマツカの名は、鎌などの道具の柄に重宝されたことからつけられました。

【バラ科/木本/白拍子棚田沿い、木見川沿いなど】

【しらかし】 白樺
藍那でもっとも大切にされてきた樹木。六甲山地にはアラカシが多く見られますが、シラカシがまとまっているのはこの地域の圧倒的な特色です。
堅く緻密な材は火持ちがよく、高級炭として珍重されてきました。また、重くて狂いが少ないため、わら叩きなどさまざまな道具に使われてきました。

【ありまぐみ】 有馬兼良
有馬温泉付近で初めて見つかったことから、牧野富太郎博士が命名したアリマグミ。東海地方から兵庫県に分布する地域固有種です。
5月につける紅くかわいらしい実は甘くておいしい!その風味を知るのには人だけでないようで、気づいたら鳥に全部食べられてた、ということも。

【ほおのき】 朴の木
風香る初夏、象牙のうつわを思わせる花。花も葉も何もかもが大ぶり、のびやかな枝ぶりの豊かな樹木です。
藍那では、田植えのさいにこの葉で包んだ、にぎり飯を食べていたとか。朴葉には抗菌作用があるそうです。葉っぱでお面遊びも。

【モクレン科/木本/つつじの小道など】

お問合せ
国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園 管理センター
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字宇代
TEL: 078-591-8000 FAX: 078-591-8001
E-mail: aina@kobe-park.or.jp HP: http://kobe-kaiyopark.jp
FB: https://www.facebook.com/ainasatoyama/



春



まだ肌寒い3月、フキノトウが顔を出し、ウグイスとシュレーゲルアオガエルの声が春を告げます。4月、ヤマザクラの開花とともに農作業がはじまり、5月上旬までツツジの花が山肌をあでやかに咲きつぎます。

夏



6月、ホトトギス鳴き、田植えをむかえます。カエルたちの大合唱とともに夕方にはササユリの甘い香りが漂います。7月にはヤマモモが紅くたわに熟し、お盆のころには早や秋草が畦でゆれています。

あいな里山公園 散策マップ



1 イロハモミジの大木(11月) 真っ赤な紅葉は園内随一



2 桜坂道のイネザクラ(5月) 5月、ひっそりと咲く涼しげな桜



3 白拍子棚田(5-10月) 公園の顔ともいえる谷あいの棚田



4 やまももの小山(7月) 実のなる木がまばらに生えている



5 タコノアシ水田(5-11月) 稲に負けじと生える温性植物



6 くり林(10月) 大きな葉がたわわに実ります



7 三つ嶺(4-5月) ヤマザクラ、カスミザクラ、ウツミザクラの3種が順次咲く



8 つつじの丘(4月) 春、山肌を染めるコバノミツツジ



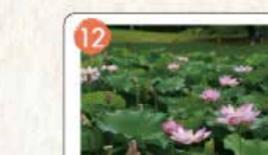
9 つつじの丘(4月) 春、山肌を染めるコバノミツツジ



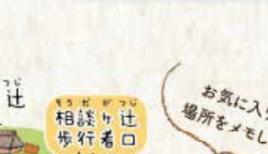
10 花いろいろ野草園(3-12月) 園内に生育する野の花の見本園



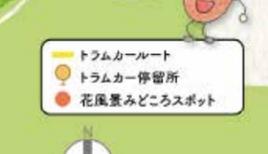
11 うめ林(2-3月) 紅い花梅と白い実梅が咲きます



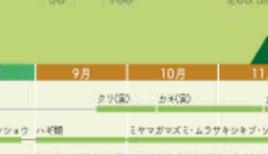
12 はす田(7-8月) 早朝、泥の中から咲く清らかな花



13 花吹あげ道 小野水田 夏はヤマカンゾウ、秋はヒガンバナ咲く



14 相談ヶ辻のはなもも(4月) 真っ白の花が春を宣言



15 花実あれこれ木見川 早春から冬まで楽しめる花実の小径



16 オミナエシ/8月下-



17 ヒガンバナ/9月中-



18 サワヒドリ/9月上-



19 カマツカ/10月-



20 リンドウ/10月下-

秋

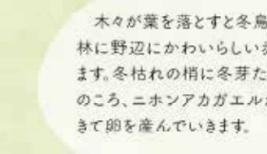
9月、モズの高鳴きのもと秋の七草が風にそよぎ、10月、木々の実りを渡り鳥が飛び込んでゆきます。11月、リンドウが野草の季節の終わりを告げるとともに、雑木林が秋空を褐色に染めあげます。



21 ヤブコウジ/12月-



22 ナガバジャンビダ/12月-



23 ハハコダガ/12月-



24 ヤブツバキ/2月-

冬

木々が葉を落とすと冬鳥たちの季節到来。林に野辺にかわいらしい赤い実が色をそえます。冬枯れの梢に冬芽たちがふるえる極寒のころ、ニホンアカガエルが畦みぞにやってきて卵を産んでいきます。



25 ホノノキ



26 クロモジ



カスミサンショウウオ、キアゲハ、キビタキ、ホトトギス、ノコギリクワガタ、ツマグロバタ



アサギマダラ、ジョウビタキ、カザネズミ、カンラダカ、ニホンイシシジミ、ニホンアカガエル卵塊

あいな里山 みごろカレンダー

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
ヤブツバキ	キブン	ヤマザクラ	ウツミザクラ	スズシメ	タリ	キムネキ	リュウブ	タリ(実)	カサ(実)	カエリ	コナラ(実)	ヤブツバキ(実)
ウメ	ササユリ	ツツジ	コバノミツツジ	ウツミザクラ	ヤマモモ	タサギ	カスミザクラ	ハナヅク	ミヤマザクラ	ミウササギ	ツツジ(実)	ウメ
フキノトウ	ツツジ	コバノミツツジ	ササユリ	ヤマカンゾウ	ハス	野の節(ミヤマカンゾウ)	オミナエシ	タコノアシ	ヒガンバナ	カサ(実)	コナラ(実)	ウメ
タコノアシ	ユキ	ノアザミ	ウツミザクラ	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)
シュレーゲルアオガエル	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)
ウグイス	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)
カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)	カサ(実)

注: 3月の写真協力: 今給黎補夫、大橋龍行、北野光良(敬称略)